

人とペットの未来

⑤

考えたしつけや健康管理、通の飼い主は、老後の資金(高住)での共同飼育の充実、預け先をどうするか、飼育や健康については早くから、の後見人・援助者を誰にするか、費用の確保など、準備しておくことは多い。「高齢にさしかかった普おけるペットの問題を調べた。他人が飼うことも」

万が一に備え「安心」支援

飼い主にとっては心配事の
一つだ。他人が飼うことも

NPO法人ベッツ・フオー
ライフ・ジャパン(P
FLJ、兵庫県西宮市)は、
高齢の飼い主が一時入院・
療養した際にペットを預か
っている。行き場を失った
大猫の飼い主探しから活動
を始め、飼い主の責任を考
えてもらう啓発をしてきた
経緯から、高齢者のペット
飼育支援も組織の役割の一
つと考えた。

「高齢者のケアをする関
係者から聞くと、ペットの
一時預かりのニーズが高い
ことが分かった」と、PFL
Jの川崎千里さんは説明
する。

「ペットの世話が生きて
い」と考える高齢者は多い。
一方で「高齢飼い主の病気
や死」を理由に自治体に
持ち込まれるペットも目立
つ。

自分が飼えなくなったと
きに、ペットをどうするか。

高齢者も飼いやすく



飼っているペットはどうなる？

- ・ペットは動物
- ・後見人は、事実上あたりの飼育はしません。
- ・「財産」として管理してもらえないのでしょうか？
- ・本人の財産が請求、本人のペットに対する思い入れが非常に強い、などの事情が満たされ、後見人がペットの飼育を委託してくれることがあるかもしれません。

ペットライフネットは設立1周年で、高
齢者がペットを飼う問題についてのシン
ポジウムを開いた(大阪市中央区)

ている関西学院大の奥野卓
司教授は指摘する。
奥野さんは現在64歳。子
猫を飼い始めた同世代の友
人の医師に「最近20年近
く生きるよ」と話したとこ
ろ、「10年くらいと思って
いた」と驚いた、という。
ペットの寿命と人の健康寿
命についての正しい認識を
広げていくことが必要と話
す。

ただ奥野さんは、高齢者
がペットを飼わないような
社会にすべきではない、と
も考えている。ペットの譲
渡の拡大やペットと暮らせ
る老人施設の増設、サービ
ス付き高齢者向け住宅(サ
ブスブ)で明らかになれば、吉本
さんはこんな期待を抱いて
いる。

広角鋭角

「ペットが高齢者の心身
の健康に役立ち、医療費削
減にもつながることが研究
で明らかになれば」。吉本
さんはこんな期待を抱いて
いる。